

[ライブ・サーター]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

206

2014年
9月-10月



CLOSE UP

大道会 60 年の歩み

OMICHI ACADEMY

看護管理者のメンタルヘルス支援能力の向上を目指す
重症度、医療・看護必要度評価者 院内指導者研修
看護管理Ⅱ-1 看護と交渉術
第14回大阪老人保健施設協会懇話会
PET サマーセミナー in 小樽

OMICHI SCRAMBLE

成人鑑賞会を開催しました
医療制度に伴う重症度、医療・看護必要度と評価について
法人内認知症実地研修

INFORMATION

森之宮病院心臓血管センター循環器内科・川崎大三部長が
医師で選ぶ専門医「ベストドクターズ」に選ばれる
森之宮病院神経リハビリテーション研究部・服部憲明部長の研究が
日本学術振興会の科学研究費に採択される



最優秀賞
「Live30」
開設以来の30年を振り返り、
最も優秀であったことを認め、
日本学術振興会が
採択されました

大道会60年の歩み

大道会は1954年の創業以来、今年2014年で60年の節目を迎えました。この60年は地域住民の皆様をはじめ、地域や国内外の様々な医療・福祉関係者の方々、そして多くの大道会の職員によって支えられてきた年月であったといえます。今回の特集では、そのような大道会60年の歩みを写真とともに振り返ってみたいと思います。

【創業期】 1954年～1970年

1954年、日本が戦後の荒廃からようやく立ち直りつつあった頃、大阪市城東区に開設されたのが大道医院です。その3年後の1957年、大道医院から大道病院が開設されました。「患者さんの立場に立って、人間味あふれた、優れた医療を提供し続けることが、地域から信頼される医療につながる」との思いから大道会の歩みが始まりました。



大道病院開設

1954

大道医院開設

1957



【新生期】 1971年～1981年

1971年は大道会が医療法人としてスタートした年です。この年を機に、人工腎センターの開設を始めとした、ハード面の施設・設備・サービスの充実が図られました。一方、社内報として始まった本誌「Live30」や地域の方々を対象とした健康教室など大道会のソフト面の取り組みも始まりました。大道会としての基盤はこの時期に作られたとも言えます。



広報誌
「Live30(旧・おおみち)」
発刊

1974

1971

医療法人大道会を設立

1973

人工腎センター開設(大道病院)

1979

健康教室開講



【挑戦期】 1982年～1995年

1982年には「ボバース記念病院」が開設されました。脳卒中や脳性まひなど中枢神経障害に対するリハビリテーション医療に挑戦しました。脳科学に基づいたボバースアプローチを駆使した治療が高い評価を受け、現在では全国から治療を希望される方が訪れるようになっています。



「けんこうファミリー」発刊

1987

1982

ボバース記念病院開設
ボバースアプローチ
講習会開始

1988

大道会年報(旧・紀要)発刊
在宅ケア科設置(大道病院)
訪問看護開始(大道病院)

1989

「地域モニター制度」導入



歯科センター開設(ボバース記念病院)

1992

リハビリテーション
総合承認施設認可
(ボバース記念病院)

1994

【拡張期】 1996年～2005年



帝国ホテルクリニック開設
訪問看護ステーション
おおみち開設

1996



1996年には帝国ホテル大阪に人間ドック専門の「帝国ホテルクリニック」を開設しました。同年、大阪市の地域医療計画に沿って介護を中心としたサービスを行う「訪問看護ステーションおおみち」を開設しました。1998年には介護老人保健施設「グリーンライフ」を開設。1999年に社会福祉法人山水学園が姉妹法人として加わりました。地域医療からスタートし、リハビリ、予防、在宅、福祉…と、機能の多様化を展開してきました。



介護老人保健施設
グリーンライフ開設

1997

特定医療法人承認
開放型病院施設基準認可(大道病院)

1998

神経リハビリテーション
研究部開設
(ボバース記念病院)
社会福祉法人 山水学園
大道会グループに



1999

特定非営利活動法人 アジア総合
リハビリテーション研究所 認証

2000



大道クリニック

訪問看護ステーション東成おおみち及び
ケアプランセンター東成おおみち開設
大道クリニック開設

2001

居宅介護支援事業所
ケアプランセンター開設

2003



山水学園

【成熟期】 2006年～2009年

2006年、大道病院の「急性期医療」とボバース記念病院の「リハビリテーション医療」を集約・高度化した新しいスタイルの病院として、森之宮病院を開設しました。また、同年、官民共同運営型PET施設として、森之宮クリニックが開設され、2007年にはボバース記念病院もリニューアルされました。地域の医療・福祉の中核を担うグループ法人として大道会は成長を遂げました。

2006

森之宮病院開設
森之宮クリニック開設
大道病院閉鎖



森之宮病院

2007

ボバース記念病院
リニューアルオープン
レンタルケアおおみち開設



森之宮クリニック

2008

大道學理事長 会長に就任
大道道大副理事長 理事長に就任



ボバース記念病院

【飛躍期】 2010年～

2010年、大道会は社会医療法人に認定されました。質・量ともに大きく成長してきた大道会。法人として次なる形を模索するために、未来創造プロジェクトが立ち上がりました。「みんなで創ろう、みんなの未来」をスローガンに、大道会はこれからも飛躍していきます。

2010

社会医療法人認定
未来創造プロジェクト始動
課題解決スキル強化ワーキング開始



2011

在宅事業部設置



データ分析スキル強化ワーキング開始
大きなお世話ワーキング開始

2012

人事制度改良
ワーキング開始



2013

2014

経営戦略策定
ワーキング開始



受講報告

看護管理者のメンタルヘルス 支援能力の向上を目指す



ボバース記念病院
看護部2階病棟主任
湯川 智子

メンタルヘルス支援の ポイントとコツを学ぶ

日程：6月30日
場所：ナースिंगアート大阪

公益社団法人日本看護協会の2013年病院看護実態調査報告によると、常勤看護師の離職率は2008年度の12.6%をピークに2013年度は11.0%、新卒看護職員の離職率は7.9%で横ばい状態です。看護部で取り組むメンタルヘルスケア支援の考え方として、一次予防はメンタルヘルス上の問題を未然に防ぐ。二次予防は早期発見・介入。三次予防は再発しないための介入、復職支援などを行う事とされています。看護におけるメンタルヘルス支援を行う意義は、①看護師の心身の健康保持・増進、②看護ケアの質の保証、③看護師のキャリア発達支援、④組織としてのリスクマネジメント、です。メンタルケアで重要な事は、「いつもと違う」部下に早く気づくこと。気づいたら気にかける観察し、声をかけることです。

職場復帰支援では、職場でのフォローアップが重要です。職場と一緒に行動して、スタッフに「職場復帰の目度があったこと」を説明し、はじめに病棟に行く抵抗感を取り除くことができるかと

うかがポイントです。

看護師のメンタルヘルスについては、仕事と関連するストレスに長期間さらされた結果、欲求不満、無力感、自己評価が低下し、長期病気休暇または離職につながります。メンタルヘルスの支援はライン上の看護管理者の理解と支援のもと、管理者によるメンタルヘルスを保持・増進できるような職場環境や、組織的支援体制を整えることが重要です。管理者として、スタッフに関心を示し、気になれば、「聴く」ようにしていきたいと思っています。

今後もスタッフの心身の健康保持・増進に努め、看護師が明るく働ける職場環境を目指し、看護の質向上に努めて行きたいと思っています。

受講報告

キャリア入職者研修会



森之宮病院看護部
7階東病棟
室井 優子

職業人として向上心を持ち、 「選ばれる病院」づくりに貢献を

日程：6月3日
場所：森之宮病院会議室

今回の研修を通し、大道会グループの概要や長期経営方針、理念について、社会から信頼される病院、施設づくり、安定した経営基盤の確立・職員の福祉向上と人材育成について学び、職員一人ひとりが真摯な心構えを持つ必要性を感じ、コミュニケーション不足による紛争や病院の評判を低下させないため、あいさつは自分から先にする行動

をとっていいと思います。患者さん

は同じ診療報酬の中で高度な医療提供は当たり前でソフトの充実も求められています。選ばれる病院になるため、優しい気持ちと真摯な態度で患者さんから信頼されるようにしたいと思っています。

新入職者に望む10項目のなかでは、給料は患者さんから頂くものという事を認識しました。また、働くことは、自分をステップアップすることであり、自分のスキルを患者さんに返す重要性を知りました。

私は就職後、環境の変化に戸惑い日々の生活に流されていましたが、今回の研修で職業人としての目標を持つ必要性を感じました。今の私にはICUの専門的知識、技術が不足しており、法人や患者さんに貢献できていないため、ICUについて本を読み、現場と結びつけていくことを目標にします。そして、緊張感と向上心を持って前向きに取り組む、PDCAサイクルを意識してケアアレスミスを防ぐ事も目標とします。

受講報告

重症度、医療・看護必要度 評価者 院内指導者研修



森之宮病院看護部
2階主任
金澤 夕起子

適正な指導、監査、評価を目指し 当院に最適な方法を検討したい

日程：6月29日
場所：CIVV研修センター新大阪東

看護必要度の評価が始まり数年がたちますが、看護必要度の評価が本来の

目的より、少し違った形で実施されているということが、今回の改正につながったことでした。評価する人による誤差も多く認められ、改めて「評価を標準化する」必要性を学びました。研修参加者の役割は「標準化の規定」をし、つかりと身に着け、自分の病棟スタッフへ指導していくことです。今回、指導はもとより、指導後に確実な監査が行われ正しい評価がなされる体制が構築されることを目標としていました。今後、スタッフ全員が理解できるような体制づくりが重要な課題になっていきます。

院内研修を取り入れている病院の例では、監査スケジュールがきちんとしていくことはもちろん、今回学習したeラーニングのように、電子カルテなどスタッフが触れることができる電子機器に病院独自で課題を作成し、日々それをクリアしていく方法が用いられていました。課題を作り、定期的に更新することは大変ですが、スタッフ自身が考え間違いに気づくことは大切であり、今回の事前学習やビデオ研修は自分自身が経験し理解するには最善の方法と思われました。当院から参加した多くの管理職者と協議し、当院で最も良い取り入れ方を模索していきたいと思っています。

多くの管理職の中から選ばれて、今回の研修に参加させて頂いた以上、精一杯努力して、この問題に取り組んでいきたいと思っています。まずは研修で聞いた間違いやすい問題や記録の必要性、大切さを日々のスタッフとの会話に取り入れ浸透させたいと思っています。

受講報告

看護管理ⅡーⅠ
看護と交渉術



森之宮病院看護部
7階西病棟主任
牟禮 博子

看護管理研修「看護管理に
必要な交渉力」を身につける

日程：8月7日
場所：ナースिंगアート大阪

今回の講義を受けて交渉を行う上で
のコツや交渉術における用語、それを
看護管理の上で使用する時の考え方
について知る事が出来ました。

交渉術に必要な事は、①冷静である事、
②相手の話を聞いてその問題・本質を聞
き出せるか否か、③情報収集、の3点。
どのように訴えれば交渉を成功させる
事が出来るかと考えれば、やはり数値
化が必要です。看護は数値化が困難な
職業ですが、それをどうにか数値化し
て交渉にあたらなければ他職種に対し
て交渉を成功させる事は困難であると
再認識しました。だからこそ、多くの職
種と関係性を作っていく事は交渉の初
段階として必須になると思います。また、
看護が交渉するのは「患者の為に」行
う看護の質を上げるため、下げないため」と
いう意識を常に念頭におきながら交渉
しなければいけない事を知りました。

看護管理者はスタッフを守る者の立
場で交渉にあたるように意識してい
きたいです。
「今は問題が起きてないから大丈夫」
は医療の業界ではあり得ません。害を

被るのは看護師であり患者さんです。
常に将来を予測して問題が起きる前に
交渉術等の手段を使用し、防止するよ
うに努めたいと思います。

発表報告

第14回大阪老人保健
施設協会懇話会



グリーンライフ
療養サービス部2科
木下 恵里

「高齢者の排泄ケア」を発表。
更に知識を深め、実践します

日程：7月4日
場所：大阪国際会議場

今回の懇話会では「高齢者の個々に応
じた排泄ケア」というテーマで、グリー
ンライフ2階での取り組みの報告を行
いました。認知症の高齢者の中には、ト
イレ動作ができるADL(日常生活動
作)を有していても尿パッドの交換を行
うのみで、トイレでの自排尿が確認で
きない方がいらつしゃいます。たとえ
排泄の訴えがなくても排泄介助の提供
の間隔を狭くしたり排尿を促す刺激を
介助者側が行うことによりトイレで
の自排尿がみられたり、排泄の訴えが
きかれたりすることがあります。その
結果、排泄物による肌ストレスの軽
減や、失禁回数が減り衣類汚染が減る
といったメリットと、介助の回数を増
やすことにより業務負担が増えるとい
ったデメリットがありました。今後も
認知症高齢者に対する知識を深め一人
ひとりに合ったケアを実践していきた
いと思います。

また、在宅復帰に向けた様々な取り
組みの発表がありました。患者さんの
在宅復帰率の高い施設は利用者に対し
て様々な職種のスタッフが協働してい
る印象を受けました。課題を明確にし、
それをクリアすることで在宅復帰率が
高くなり、成功例としてスタッフのモ
チベーション向上にもつながっていま
した。在宅復帰率を上げることが今後
老健にとって必要不可欠です。

発表の中には車椅子で入所した利用
者が自宅に帰り、自転車で外出する
という事例もありました。入所後の短期
集中リハでどこまで利用者または家族
のニーズに合ったケアをし、ADLを
維持・向上することが出来るかを多職種
がチームとして考えていかなければい
けないと痛感しました。



発表会場風景と
発表の様子



発表報告

PETサマーセミナー
in小樽



森之宮クリニック
企画広報課課長
荒木 美穂

クレームを起こさないために
何をどうすればいいのか？

日程：8月29日～30日
場所：グランドパーク小樽

今回の大会テーマは「All for PET,
PET for All」みんなで作るPET検
査」でした。PET/CT検査や、その
研究は、医師、薬剤師、技師、看護師、事
務そして患者さんすべてによって作ら
れています。さらにいえば、医療機関だ
けで作る上げるものではなく、機器メー
カーや薬剤メーカーなどの企業、放射線
管理を行う機関、新しい方法や薬剤を研
究する機関などが力をあわせて発展さ
せていくものです。この趣旨から、これ
までの大会とは違い、看護・事務のセッ
ションにも注力し、会場の参加者にも積
極的に参加してもらえよう、スマホや
携帯を利用したアンケートを実施した
り、事例を挙げて、その対応について論
じ合うなど、双方向のコミュニケーション
が目立ちました。

吉田部長が座長を務める看護、事務系
セッションにおいて、「クレーム対応に
ついて」を取り上げることとなり、医療
コンシェルジュとして、日々受診者と向
き合っている立場から、クレーム対応は
危機管理の要である、クレームを起こさ
ないためにも「接遇」が大切であると、キ
ャリア入職者研修会でお話している内
容を中心に発表を行いました。

中でも、医療サービスには、「本質サー
ビス」と「表層サービス」があり、表層サ
ービスの充実こそが患者満足度の向上に
つながるといっ話には、大勢の方が反応
されました。発表終了後にも大勢の方か
ら声掛けを頂き、「私の施設でも話をし
て欲しい」といったお話もあり、交流の
幅を広げるきっかけとなりました。

法人全体

法人内認知症実地研修

7月に行った法人内認知症実地研修グループ主催の研修会に、各事業所から合計100名の方が参加して下さいました。

約1年間、認知症ケアについて悩みながら日々頑張っている仲間が集まり、ともに学びあい、ケアを実践・共有してきました。その中から4名が代表して実践報告を行い、認知症の人へのケアを会場と共有し、その後に「見る」「話しかける」「触れる」「立つ」の4つの方法が柱となる「ユマニチュード」という新しい認知症ケアの技法の紹介も行いました。

参加者からは、「大切なことを忘れていた」「考えさせられた」「その人の生きてきた歴史、心情などを知ることの大切さを学んだ」等の意見が多数寄せられ、自らの関わりを振り返るとともに、明日からのケアに生かせる視点を学んで頂ける機会になったようです。

9月からは新しいメンバーを迎え、今後、さらに法人内の職種や役職の壁を越えて、



恒例となった認知症を学ぶ研修が今年も行われました



事例発表もあり、100名を超える参加者とともに認知症についての知識を深めることが出来ました

認知症ケアを学び実践していく仲間を増やしていく予定です。
(サンローズオオサカ 高橋愛子)

ボバース
記念病院

医療制度に伴う重症度、 医療・看護必要度と 評価について

2014年重症度、医療・看護必要度の基準項目と規定内容の変更に伴い、看護必要度評価者研修に参加させて頂き、評価の精度を上げることや保持するための課題抽出が出来ました。そこで看護必要度委員会を発足し、役割を担うために単位制の研修会を行いました。

した。
看護必要度の評価の担保となる記録の標準化としての記載基準を作成し、記録監査のシステム化により適正に評価出来ているかを繰り返し継続して行うようにしています。
今後は、自部署外のスタッフを交えて無作為に抽出した

患者の評価を行う外部監査に堪えられる評価と記録の監査を行い、自部署の適正な評価がどの程度出来ているか傾向を把握し、対策を講じていきます。
(ボバース記念病院3階病棟 主任 江本幸代)

森之宮病院

成人鑑賞会を開催しました

6月18日(水)、こもれび広場にて、平成26年度成人鑑賞会を開催しました。演奏は「チャービラーズ」の皆さんで、沖繩の歌を中心に6曲、披露して頂きました。

馴染み深い曲ばかりで、はじめは硬かった観客の皆さんの表情も、次第にほぐれLIVE終盤にさしかかる頃には、表情も柔らかくなり笑顔もこぼれ、身振り・手振りで踊ってみたい、配られた歌詞

カードを見ながら歌ってみたいと楽しい時間が過ぎていきました。

LIVE終了後に、自室へ戻られる方々に、「楽しかったよ!」「良かったね!」等、感想を頂き、鑑賞会を通して、少しでも心のリハビリのお手伝いが出来たのではないかと感じました。

(森之宮病院診療技術部画像診断科生理検査 山内麻實)



「音楽の力が皆さんの元に届くように」の想いで、会場は大盛り上がり

頑張っている職員に注目！

ただ今、奮闘中

#46

「美味しい」食事を目指して

ボバース記念病院診療技術部栄養サービス科

田井 知絵 科員

ボバース栄養サービス科では年に2回、入院患者対象に嗜好調査を実施しています。自己記入方式で毎回食事の美味しさを5点満点で評価して頂く項目があります。9割以上が治療食を召し上がる中、少しでも多くの患者さんに5点の評価を頂けるように、委託先の日清医療食品(株)のスタッフと、より美味しい食事の提供に努めています(今年3月の結果では5点が全体の16%、4点が30%でした)。美味しさは食事の温度にも左右されますが、当院で長年の課題であった「冷めている、ぬるい」を解消すべく、現在は温冷配膳車の導入に向けて関係各署と準備を進めている最中です。今後の予定として、OTと意見交換しながら食器を選定、厨房のレイアウトの変更、献立の見直し等々、やらねばならないことが数多く控えています。全ては患者さんの食事のため！周囲の方々に協力を頂き、時には背中を押して頂きながら、導入実現に向けて頑張っていきます。



森之宮病院
登録医 紹介 23

中村クリニック

中村 正廣 医師

大阪府大阪市東成区東中本2-1-21

06-6971-0860

診療科: 胃腸科、外科、肛門科



中村院長は昭和53年、昭和大学医学部卒業後、大阪大学医学部 第一外科に入局。大阪大学医学部附属病院、東大阪市民病院などでの勤務を経て、地域の皆様が住み慣れた地域で住み続けられるよう、かかりつけ医になりたいという思いがあり、平成8年、東成区に中村クリニックを開設されました。

「総合診療医として幅広く診察し、専門的な治療が必要と判断した際は、その患者さんに最も適した専門病院へ紹介することが大事。患者さん一人一人の生活背景を考えて、最良の治療や看護、介護はどういったものなのかを考えなければならぬと思っています。病気や傷の治療だけでなく、不安や心配な気持ちを持つ患者さんに安心感を持って頂けるように心掛けています。心が満足になって、帰る時には笑顔がみられると嬉しいです。かかりつけ医として患者さんの心のケアを含めた総合診療をすることを目指しています」と話す中村院長。

休日には里山歩きをしたり、キーボード演奏といった趣味もお持ちです。

中村院長の優しく包み込むような口調と笑顔が印象的でした。また、地域の皆様の健康管理、医療、暮らし方について常に考えておられ、地域医療に尽力されているのだと感じました。(森之宮病院地域医療連携室 平野奈央)



サンローズ
オオサカ

地域の方が参加され一緒に祭りを盛り上げて下さいます



他部署の職員が連携をとって、入所者様と一緒に祭りを楽しまます



グリーンライフ

東中浜連合女性部のボランティアの皆さまを中心に、ご家族・職員も加わり、大いに盛り上がりました



ビール・かき氷・わたがしなどの屋台を出店、皆さまに楽しんでいただきました

サンローズオオサカでは平成26年7月26日(土)、グリーンライフでは平成26年7月27日(日)、多くのボランティアのご協力のもと、夏祭りを開催しました。盆踊り・屋台を楽しみ、大いに盛り上がりました。

夏祭りを開催しました



森之宮病院心臓血管センター循環器内科・川崎大三部長が 医師で選ぶ専門医「ベストドクターズ」に選ばれました



から医師で選ぶ専門医「ベストドクターズ」(Best Doctors in Japan TM

森之宮病院心臓血管センター循環器内科・川崎大三部長が米国ベストドクターズ社(Best Doctors, Inc.: 本社・ボストン)から医師で選ぶ専門医「ベストドクターズ」(Best Doctors in Japan TM

2014-2015)に選出されました。2014年7月現在、世界中で約53,000名の医師がベストドクターズとして認定されており、日本でも医師全体の2%(※)にあたる約6,100名が認定されています。

下肢閉塞性動脈硬化症は下肢のしびれ、冷えに始まり間歇性跛行や足部に潰瘍、壊死が生じる病気です。当院では薬物療法、リハビリ療法、最先端のカテーテル治療(必要があ

れば最小限のバイパス手術)を組み合わせることで自分の足で円滑な日常生活を送って頂けることを目標に日々取り組んでおります。

治療が困難と言われた場合でも当院で対応出来る場合がありますのでお気軽にご相談下さい。

(※)厚生労働省「平成24年(2012年)医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」によると、日本の医師数は約30万人であると報告されています。

森之宮病院神経リハビリテーション研究部・服部憲明部長の研究が 日本学術振興会の平成26年度学術研究助成基金助成金の 基盤研究に採択されました



研究部・服部憲明部長が申請した課題「脳内ネットワーク解析による脳卒中患者の心理特性と機能回復の関係についての検討」が採択されました。

服部部長は、平成20年度～23年度にも、「脳卒中の機能回復の機序の解明とBMI導入への基礎的応用」の研究において、独立行政法人科学技術振

興機構の科学研究費に採択され、24～25年度には、「リハビリテーションにおける患者間コミュニケーションの効果とその神経機構の解明」の研究が文部科学省の科学研究費に採択されました。患者が主体的にプログラムに参加することが重要視されるリハビリにおいて、患者の心理・性格特性・神経基盤の理解はとても重要であると考えられ、そこに着目した服部部長の「心理的側面も考慮した機能回復についての総合的な研究」は、分野を先駆ける研究として評価されたと言えます。

服部部長は、「常々、同じような病巣、障害を有する方でも回復には個人差が大きいと感じています。リハビリには、新たに動作を身につけて

いく学習の要素が重要ですが、それには、私たちは意欲などについての理解をもっと深める必要があると思います。森之宮病院の様々な職種のスタッフと協力し、MRIなどの科学的なデータと組み合わせ、新たな機能回復のモデルを提供出来るように本研究を進めていきたいと考えています」と抱負を語っています。

ご寄付・ご寄贈を頂きました

大森勉様(大阪市城東区)、早瀬征生様(大阪市城東区)、白田栄子様・木藤勝義様(大阪市城東区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございました。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーター】

2014年9-10月号 vol.206 〈隔月発行〉

編集発行人／社会医療法人 大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人 大道会本部

T EL 06(6962)9621

森之宮病院

T EL 06(6969)0111

ボパース記念病院

T EL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

T EL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

T EL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

T EL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

T EL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

T EL 06(6967)1123

訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所

T EL 06(6942)3737

訪問看護ステーション東成おおみち

T EL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

T EL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

T EL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

T EL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

T EL 06(6974)7388

東成山学園(保育園)

T EL 06(6974)7377

● 本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

● 職員行動モットー

親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)待たさない／よく説明する／連携する

● パソコン <http://www.omichikai.or.jp>

● 携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただく、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



編集後記

今年も恒例の夏祭りがグリーンライフとサンローズオオサカで開催されました。大道会各施設では、お花見やクリスマス会、さらに院内外から演者を招いての鑑賞会など、一年を通して色々なイベントが開催されます。入院されている方や利用者の方、そのご家族に少しでも楽しいひと時を過ごして頂く為に、毎回工夫を凝らし盛り上げている各施設のスタッフには本当に頭が下がります。

これからも、様々な場面で活躍する職員を紹介していきたいと思っています。
(森之宮病院診療技術部薬剤科 科長 奥村栄子)